

多臓器に膿瘍の見られたアクチノバチルス症の1例

久保正法、芝原友幸（動物衛生研究所）

Kubo, M. and Shibahara, T. (2009). A case of actinobacillosis with abscesses in multiple organs.

Proc. Jpn. Pig Vet. Soc., 54, 1.

Actinobacillus pleuropneumoniae (App) は、通常は肺に胸膜肺炎を形成する。今回は、多臓器に膿瘍を形成した変った App 感染症を紹介する。

患者は約50日齢の子豚で、消瘦、被毛粗剛のため鑑定殺された。剖検では、肺の前葉から中葉にかけて肝変化し、微小膿瘍も見られた。肝には全体的に点状出血と微小膿瘍が見られた。ソケイリンパ節は腫大し水腫様であった。細菌学的には、肺から App と *Pasteurella* が分離され、肺門リンパ節から *Pasteurella* と *Haemophilus parasuis* が分離された。

組織学的には、肝（写真1）、脾、肺（写真2）、リンパ節、膀胱漿膜の中に菌塊を含む多発性膿瘍が見られた。菌塊を取巻く細胞は、核および細胞質が紡錘形に伸張し、一般的に見られる好中球が取巻く膿瘍とは様子が異なっていた。肝臓では、菌を含む血栓も多数見られ、敗血症を示していた。脾臓では、少数の膿瘍が見られた。肺では、中心に菌塊をもつ膿瘍が肺泡および気管支腔内に見られた。肺でも、菌塊を取巻く細胞の核および細胞質は紡錘形に伸張していた。リンパ節では、内部に菌塊を含む壊死巣が見られ、伸張した核を持つ細胞が混在し、明らかな好中球は見られなかった。膀胱の漿膜にもリンパ節と同様な病変が見られ、菌塊の周囲を伸張した核を持つ細胞が取巻いていた。肝臓と肺について、App 2 型に対する免疫染色により、菌は陽性に反応した（抗体は、Ohba, T. et al., J. Comp. Pathol. 139, 61-66, 2008. と同一のものをを用いた）。

App 以外の病変として、リンパ系組織におけるリンパ球の著しい減数が見られた。扁桃について、豚サーコウイルス 2 型 (PCV 2) に対する免疫染色により、少数の抗原が検出された。腎臓の皮質間質に強いプラズマ細胞浸潤、結腸にバランチジウムの寄生が見られたが、心臓、胃、十二指腸、脾臓、空腸、脳には著変は見られなかった。

App 2 型菌は、胸膜肺炎だけでなく、全身性に感染することもあることを示す症例であった。また、菌塊の周囲を伸張した核を持つ細胞が取巻く、特異な膿瘍

病変を形成した。これは、App 菌の産生する cytotoxin のような毒素によるものと推察された。

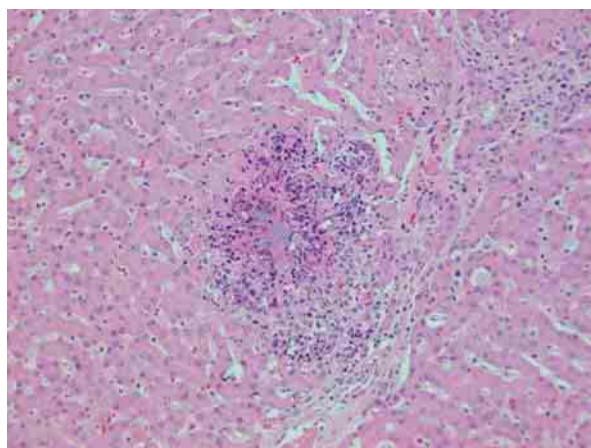


写真1 肝臓に見られた膿瘍。菌塊の周囲を紡錘形に変形した細胞が取巻いている。(HE 染色、200倍)

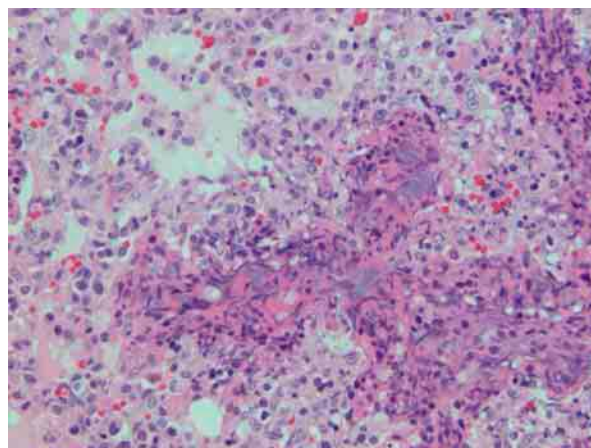


写真2 肺に見られた膿瘍。菌塊を取巻くように紡錘形の細胞が取巻いている。(HE 染色、400倍)